

山田みやこの活動報告

令和7年1月15日(水)

令和6年度 こども・若者支援体制整備及び機能向上事業としての講演会

「子ども若者を見守る居場所と地球ネットワークづくり」

～子ども・若者・大人みんなにとって安心できる居場所～

講師 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 こども若者支援担当部長
一般財団法人ソーシャルペダゴジーネット代表理事 松田 考さん

1) こども若者支援の必要性

地域の行事参加に中高校生・若者が参加しない為、つながりを持ちたいか、どうしたらよいかわからない。

家、学校、職場に左右されない領域で、子ども・若者を社会で育てる第3の居場所が必要。

しかし、自分を作り、アイデンティティ形成の場が崩壊している。

ネット社会が広がり、社会課題が家庭内に「密室化」している。

DV・虐待の増加、他人の家のことに口出さないという暗黙のルールや

家族は仲良く助け合うという前提になっている。

熟考すればするほど子どもを産まない方が得という若者の価値感がある。

悩んでいるが相談のスタートラインに立つまでの期間が必要だが、その間どうすればよいか難しい。

最大のリスクは義務教育との切れ目にある。

「専門家」と「街の居場所（日常家）」の二つをつなげないと見守りはできない。

そこで、札幌市では、見守りとして家のような「居場所」である「いとこんち」、みんなの「休憩処」である「ひとてま」、どこでも「居場所」である「リビングカー」（学校の駐車場で週1回、車の中で朝ご飯提供）・「離家」（家に帰りたくない→家から離れる→親と子がそれぞれコンディションを整える場として住むところが必要な若者へ提供）次に進むための練習、次が見つかるまでの宿（ショートステイ）として、安心の場となる施策を行っている。

※学校、医療・福祉機関、行政、警察、支援窓口等、単独の機関で解決は難しい。

様々な機関や人々が重なり合って支援をすることが、地域の街づくりにつながっていく。